

## きく組

### — 年間目標 —

- ◎ 友だちと考えを出し合い、気持ちをコントロールしながら、協力して遊びや活動を作り出すことを楽しみ、最後までやり遂げる達成感や充実感を味わう
- ◎ 社会生活に必要な力を身につけ、積極的に関わりながら、園生活を楽しむ

### — 1学期の目標 —

- ◎ 年長組になった喜びと自覚を持ち、約束事を確認しながら、友だちと楽しく遊ぶ
- ◎ 様々な友だちと関わりを深めながら、友だちと一緒にお互いの考えを出し合いながら過ごす

### — 活動内容 —

#### じゃんけんぽん



(健康な心と体、自立心、協同性、道徳性・規範意識の芽生え  
豊かな感性と表現、言葉による伝えあい)

- ・ルールのある遊びの一つで『王様じゃんけん』を2つのグループにわかれて行う。
- ・最初の1回目は、自分の勝ち負けが中心で、勝ったら笑顔、負けたら涙が出てしまう子が続出だった。
- ・回数を重ねるにつれ、友だちの様子が気になり、応援の声が増え、自分のチームの友だちが勝つと一緒に喜び、負けると悔しがったり、涙する子もいた。
- ・その後、何度か活動で行う。話し合い、並ぶ順番を決めたり、作戦をたてる時間を設ける。
- ・チームごとの応援や励ましの声、負けても次こそは。と悔しがりながらも、次へ気持ちがむくようになる。
- ・きくぐみ会議の中で、鬼ごっこのバリアの回数を決めることになり、全員が『王様じゃんけん決めてよう!』と意見が一致し、ゲームを行い、ルールを決めた。

#### おいしくなれ!!!

(健康な心と体、協同性、思考力の芽生え、社会生活との関わり・生命尊重、言葉による伝え合い、思考力の芽生え、量・図形、文字等への関心・感覚 豊かな感性と表現)

- ・5月の園外保育で“梅ちぎり”へ行く。初めて梅を見る子どもが多く、『梅は緑色なんだね』『かたいんだね』と不思議そうな様子の子がいた。匂いをかいだり、大きさを比べる子もいた。
- ・きくぐみ会議の中で、梅ジュースと梅干しを作ることになった。
- ・梅ジュース作りでは、実際に氷砂糖を持ち、『1キロ』の重さに触れてみる。
- ・梅の下処理をみんなでで行う。その後、氷が溶ける様子を観察しながら、出来上がり、宿泊保育の掃除・キャンプファイヤーの練習日にジュースを飲む。「おいしいね!おかわり!」の声がいっぱい聞けた。
- ・梅干し作りでは、塩をなめたい子はなめ、しょっぱさを味わう。
- ・紫蘇もみでは、たくさんの葉っぱがもむことで小さくなり驚きの声があった。又、もむごとに色に変化があった。紫蘇と梅が混ざりあう瞬間、子ども達から歓声があつた。
- ・紫蘇でゆかりのふりかけを作り、昼食時に希望者はふりかけにして食べた。
- ・出来上がった梅干しは、宿泊保育の朝食のおにぎりの具材で食べる。
- ・毎日のように「まだできないの?」と尋ねる子もいた。



### — 1学期の反省 —

- ・子ども達のさまざまな思いや考え等、言葉で伝えられるようにできたらと、『きくぐみ会議』と名前をつけて取り組んだ。又、遊びの中で、意見の食い違い等でトゲトゲした傷つけた言葉で伝えることがあり、保育者が間に入り、解決することが多かったが、その中で自分の思いを言葉にして伝えることができた。
- ・梅シロップ作り、梅干し作りの他に味噌作りを経験し、その時々不思議さや驚きを感じながら、その一つひとつの過程を友だちと共有しながら取り組むことができた。子ども達は、手間暇かけて作ることで、充実感を味わいながら、食への興味を持つことができたように思う。又、宿泊保育に向け取り組んできたこともあり、宿泊保育では期待を膨らませながら当日を迎えることができた。
- ・雨天時に傘を持って散歩を計画するが、実践できなかったもので、卒園までには経験をしていきたい。

### — 2学期の目標 —

- ◎ 友だちと一緒に共通の目的に向かって、意見を出し合いながら取り組み、やり遂げる達成感を味わう
- ◎ 自分の思いを伝え、相手の考えも聞き、友だちと一緒に遊びを進めていく

